

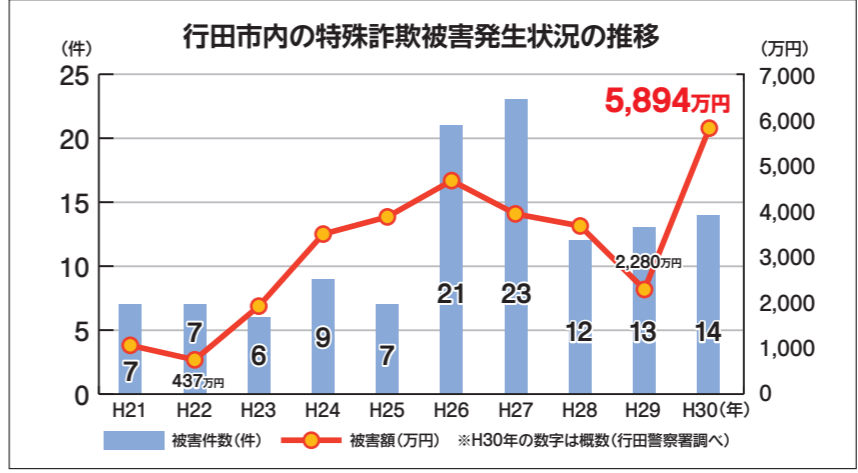


特殊詐欺にあわないために! 「自分は大丈夫」が 一番危ない!!

平成30年中、市内では5,894万円の特殊詐欺被害が発生し、過去最悪の被害額となっています。平成15年ごろから、全国でオレオレ詐欺などの特殊詐欺被害が発生し始め、今では知らない人はいない犯罪ですが、その被害はとどまることがありません。大切に貯めたお金が犯罪者の手に渡っています。家族への愛情や人の弱みにつけ込んで財産を奪う悪質な犯罪は、決して許してはなりません。「自分は大丈夫」と思わず、被害者にならない対策を考えてみましょう。

特殊詐欺被害の推移

市内の犯罪認知件数は、年々減少し、平成21年の半数程になっています。一方、特殊詐欺は、全国での被害額が平成26年にピークとなり、その後減少傾向が続いています。市内では、昨年1件あたり1千万円を超える被害が3件発生し、過去最悪の被害額となりました。



多様化する手口

「最終通知」などのタイトルで、「連絡が無い場合は、裁判になる」と電話を促し、言葉巧みに現金を送らせませす。
大手通販会社を名乗るメール
「代金の未納があります」という突然のメールがあり、確認の電話をさせ、「ギフトカードを購入し、番号を伝えたら、それで済む」などだまされてきます。
デパートや家電量販店を名乗る電話
「あなたのキャッシュカードが使われている」「キャッシュカードを変える必要がある」と話した後、金融機関職員を名乗る人物が自宅を訪れ、キャッシュカードを持ち去ります。
警察官や市役所職員を名乗る電話
公的機関の職名を言い、住所や通帳残高、暗証番号などを聞き出します。その後、銀行員などの身分を偽ったものがキャッシュカードを預かりにきます。



特殊詐欺を防ぐには

内閣府が行った「特殊詐欺に関する世論調査(平成29年3月公開)」では、最も被害が多い世代である70歳以上の24パーセントが被害防止対策を何も行っていないとの結果が出ています。犯人は、優しく丁寧にだまされてきます。「自分は大丈夫」と過信せず、対策を行いましょう。

実体験を語る

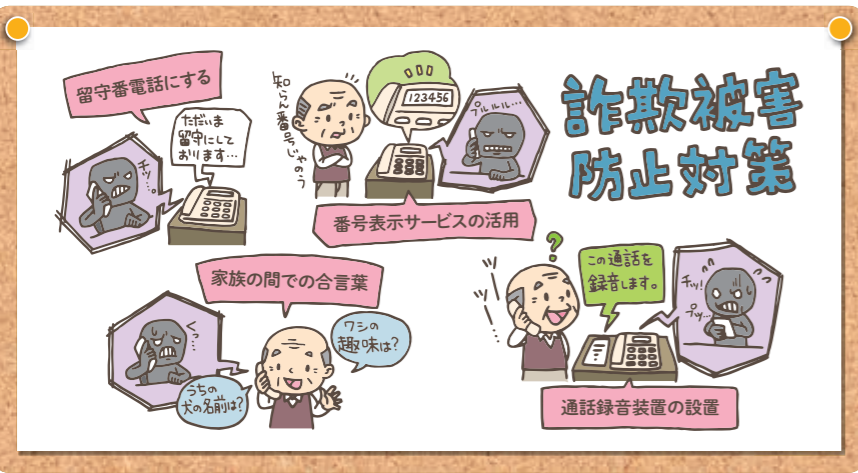
市内在住80歳男性Aさん へのインタビュー

【事件の概要】

夜8時ごろにAさんの自宅の電話が鳴った。相手は「大宮だけ」と地名を言ったため、Aさんは大宮に住んでいる甥の名前を答えると、相手は甥をかたり、「明日、仕事で近くに用があるため家に寄りた」と話した。お土産を持たせたいと思ひ、甥の母である妹に連絡をしたところ、妹から甥はAさんの家の電話番号を知らないはずだと教えられ、詐欺だと気付いた。市職員：詐欺だと分かるまでおかしいなと感じましたか。

Aさん：甥には15年ぐらいい会っていないから、こちらから妹に電話するまでは甥の声だと思ひ込んでしまった。市職員：妹に自ら電話をしたことでだまされなかったということですね。Aさん：そうだね。「こちらから電話をした」というのが良かった。

市職員：なるほど。「自分の知っている番号に掛け直してみる」は、振り込め詐欺防止に有効であることを実感しました。その後、何か対策をされていますか。Aさん：在宅中でも留守番電話に設定し、なるべく電話に出ないようにしている。もし電話に出ても夫婦で誰からどんな電話がかかってきたのか確認しているよ。



お金の話は顔を見て

だます手口が巧妙化し、この対策をすれば絶対に大丈夫と言いきれない状況のため、警察では、詐欺予兆電話がかかってきたとの通報が入った場合は、市と連携し、防災無線や防犯メール、青色回転灯付きパトロール車で注意喚起を行っています。個人の対策として「常に留守番電話の設定をし、電話に出ない」「他人にお金やキャッシュカードを渡さない」をお伝えしていますが、最近でははがきを利用し、現金を宅配便で送らせる手口も発生しています。不安なときは、電話の相手を頼るのではなく、顔の見える周りの人に相談しましょう。ささいなことでも行田警察署 ☎ 553-0110までご連絡ください。



行田警察署生活安全課長 坂井康礼さん



市で配布している予防シール

絆で犯罪を防ぐ

被害を未然に防ぐためには、皆さん一人一人の力が大切です。「自分は大丈夫」という方に詐欺の脅威を知ってもらわなければなりません。離れて住む家族と連絡を取り合う、被害に遭いやすい高齢者の方を地域で見守る、仲間と話題にする。小さなことから一歩ずつ卑劣な犯罪に對抗する絆を深めていきましょう。

▼問い合わせ 防災安全課防犯担当(内線 2083)

